



Tokyo Gakugei University Repository

東京学芸大学リポジトリ

<http://ir.u-gakugei.ac.jp/>

Title	学校研究のモデルとしての校内研究への期待（主題研究：巻頭言）(fulltext)
Author(s)	太田,伸也
Citation	研究紀要/東京学芸大学附属小金井中学校(52): 3-4
Issue Date	2016-03-28
URL	http://hdl.handle.net/2309/146676
Publisher	東京学芸大学附属小金井中学校
Rights	

学校研究のモデルとしての校内研究への期待

校長 太田 伸也

平成27年度は、11月21日に教育研究協議会を開催しました。平成24年度から3年計画で取り組んできた研究については昨年度にまとめと提案を行い、本年度は新しいテーマを模索しながら授業研究を進めてきたものです。これまでのテーマとの連続性を確認するとともに、新たに取り組むべきことがらについて考える機会となりました。研究協議会に参加していただいた皆様に厚く御礼申し上げますとともに、研究過程でご指導いただいた先生方、研究協議会当日にご助言を賜りました助言者の皆様、研究会の司会、運営等でお世話になりました皆様にあらためて御礼申し上げます。また、本校の教育研究活動に対しご支援をいただいている小金井市教育委員会、諸教育機関および研究会ほか多くの皆様に、引き続きのご指導ご鞭撻をお願い申し上げます。

今年度の校内研究を振り返ると、教科の授業を全員で参観し協議したことが印象に残っています。教員がグループに分かれ、観察対象とする生徒の活動を追い続けて、その記録をもとにグループや全体で協議をしたことがありました。あらためてその記録やメモを見直してみました。

たとえば、『Aさんは、グループ活動の中で「○○するつもりで（ノートの枠を）準備したけど、やらないの?」と言っていた。本人はこのときに□□について調べる必要があると思っていたのだろう。』、『Bさんは、「△△は?」と（グループの仲間に）聞いていたが、これは○○の意味がわかっていなかったからではないか。疑問が出されているのはよいことであるが、この疑問を教室全体のものにした。』、『Cさんの活動には、他の生徒と積極的に意見を交流したり働きかけたりする場面はほとんど見られなかった。周りに引っ張られながら学習を進めている場面が多いが、一方で途中からは自分で黙々と取り組む時間帯も見られた。自分で考えたことについてとなりの生徒と話す場面が何度かみられた。』、『Dさんは、ノートに試みた結果を毎回書いていた。・・・最初はどうか考えて良いのか迷っている様子だった。・・・自分の世界に入って一生懸命にノートを書いていた。書いては消し、書いては消し、を繰り返し、随分と（思考に）入り込んでいた。・・・（次の場面で）「あ、わかった」とつぶやいて、となりの生徒に一生懸命に話をしようとしていたが、その生徒には伝わらなかったようである。・・・途中で先生の問いに挙手しようとしたが、周りを見て挙げられなかった。・・・」（具体的な事柄の記述を除くとともに、一部加筆したり表現を変えたりしてあります。）このような紹介だけでは伝わりにくいですが、一人の生徒の目を通して、授業での事実の一端が伝わってきます。「グループでの話し合いが活発だった（進まなかった）」というような皮相的な事柄ではなく、教科の内容や方法に踏み込んでいることがわかります。

中学校や高等学校の教員にとっては、それぞれが自分の専門性に依存する教科観、教科教育観をもって授業を考えます。お互いの教科内容に踏み込みにくい故に教科の枠をはずしての授業研究はしにくいということの方が多数派かもしれません。ここを乗り越えていることが重要です。それぞれが自分の教科観、教科教育観にてらして他教科の授業での生徒の活動をとらえようとしたときに生ずる「授業の目標や生徒の活動の解釈のあり方（広い意味での評価）への疑問」に対して、教材の価値や生徒の活動

の価値を具体的に結び付けて議論できるようにするのは、その教科の専門性をもつ者や授業者の役割です。このことによって、お互いの教科観、教科教育観を、そのときどきに教材や生徒の活動に投影しつつ授業研究を深くすることが可能になると思います。同じ専門性をもつ者だけによる授業研究とは質の異なる深まり方が期待できると考えます。

小金井中学校では、教育実習においても一つの授業を実習生（と教員）全員が参観して協議を行う「全体研究授業」が行われています。この価値を大切にしているところにも、上に述べたような背景があるのではないかと理解しています。先に述べた「同じ専門性をもつ者だけによる授業研究とは質の異なる深まり方」の実例を、学校として示していくことを期待したいと思います。これは、研究テーマがもつ内容だけでなく、中学校や高等学校における学校研究の方法についての提案でもあります。